

「対話を求める要望書」の提出を申し入れました

銚子市議会議員有志 11 名は 11 月 8 日、銚子市立病院再生機構理事の皆様に対し、「対話を求める要望書」の提出を申し入れました。理事の皆様が発行された「銚子市立病院から銚子市民の皆様へのご報告」を真摯に受け止めたことを申し上げ、赤字補てん予算否決に至った経緯と市立病院再生に対する考え方を伝え、「対立」ではなく「対話」を求めていることを表明させていただくためのものです。理

事の皆様には、ぜひお受け取りいただきたいと願っております。

要望書の内容を市民の皆様にお知らせします。

銚子市議会議員

石上允康 岩井文男 笠原幸子 加瀬庫藏
桑村邦博 越川信一 地下誠幸 根本 茂
三浦眞清 宮内和宏 宮川雅夫

野平市長の^{ゆが}歪んだ情報にまどわされないで下さい！

銚子市立病院再生機構理事の皆様へ～対話を求める要望書

【銚子市議会議員有志】

病院の皆様への感謝を忘れず、 思いをしっかりと受け止めます

医療法人財団銚子市立病院再生機構理事 4 名の皆様の連名によって、11 月 4 日と 5 日の新聞に折り込まれました「銚子市立病院から銚子市民の皆様へのご報告」を拝読し、その思いを真摯に受け止めました。皆様の意に添わなかったことや、皆さまを傷つけるような発言があったことを率直に認めます。今後は皆様との対話を通して、皆様と共に、地域医療と銚子市立病院のあり方を考えてまいりたいと思っています。

その上で、9 月議会・10 月臨時議会の赤字補てん予算になぜ私たちが反対したのか、その理由を申し上げたいと思います。

銚子市立病院再生のために必死に努力されている病院医師・看護師・職員の皆様に対して、私たちは議場で常に感謝を述べ、「市立病院を応援し守る」という基本姿勢をすべての議員が表明してまいりました。

一方で、銚子市内の小中学校ではテスト用紙のコピー代にも窮するような苦しい予算配分の中で、税金の使い道を厳しくチェックすることは、市民から議員に課せられた使命でもあります。指定管理料・赤字補てん・修繕費を含めた銚子市立病院に対する運営費補助は、平成 22 年 5 月の病院再開から 3 年足らずで 21 億円（総務委員会執行部答弁）にのぼ

り、当初事業計画の 5 年間分をすでに突破しています。教育費のみならず、近隣に比べて高額な国民健康保険料など市民生活にも影響が及ぶ中で、病院をしっかり守りつつ、いかに運営費補助を適正化していくかは、銚子市にとっても、議員にとっても重要な課題です。

病院を潰すために赤字補てんに 反対したのではありません！

野平市長の政治姿勢を正し、 是正・再提案を求めたのです

私たちは、いたずらに赤字補てんに反対しているわけではありません。赤字補てんについては、限度額を設けた上できちんと補てんすべきだと主張してきました。「病院の赤字は市が青天井で補てんする」と言い続けている野平市長は、病院開設者としてあまりにも無責任です。野平市長の政治姿勢を正し、是正と再提案を求めた否決だということを、ぜひご理解いただきたいと思います。

今年度当初予算では、年度末に精算することを前提とした赤字補てんのための 4 億円の短期貸付について可決しています。4 億円の赤字補てんについて認めています。銚子市も 10 月臨時会では「3 種類の経費の合計額を、銚子市の負担する上限額の範囲

内で行なってもらえるかどうかを今後、再生機構と協議する必要があると考えている」と述べています。私たちはこれを一定の前進と受け止め、協議の行方を注視しています。

効率的運営をめざす指定管理者制度の趣旨から言っても、経営責任の一端を再生機構の皆さまにも担っていただくことは重要な要素です。もちろん、銚子市にも再生機構にも負担能力の限界はあります。再生機構に内部留保がない中で、資金ショートに陥ることがないようにしながら、赤字限度額を超えた部分をどう負担していただくかは、難しい課題です。

補正予算を否決した9月議会では、全会一致の議員決議で「銚子市からの赤字補てんについては、指定管理者である医療法人財団銚子市立病院再生機構に健全なコスト意識を持った経営を徹底していただくためにも、リスク分担表に則った赤字補てんの上限額や再生機構負担額の設定が必要です。再生機構負担額の財源については、銚子市からの長期貸付金(黒字化後の返済)も含めて再生機構と協議すべきです」と議会の考え方を述べさせていただきました。赤字補てんの限度額を設け、それを超える部分については、長期貸付金で対応することをぜひ再生機構と協議して欲しいと訴えました。資金ショートに陥らないための提案でした。

野平市長は議会で、事業計画に示された「5年目の黒字」を強くアピールしてきました。しかし、医師招へいや診療報酬の状況によって計画通りになるとは限りません。長期貸付にあたっては、市の債務放棄も含めて、5年目の黒字が実現しなかった場合にはどうするのかも十分に協議する必要があると思っています。

私たちは、赤字補てんの一部を長期貸付に切り替えるための予算修正案を提出したいと協議しましたが、議会の権限の及ぶ範囲ではなく、修正案を断念した経緯もあります。

野平市長に対して、全会一致の議会決議をしっかりと受け止めて、再生機構の皆さんと協議し修正した上で、臨時議会をすみやかに開くことを求めました。

しかし、全会一致の決議を踏まえた修正はなされませんでした

しかし10月臨時会で提出された補正予算案の3億1365万6千円の赤字補てんは、予備費を除

けば97万円の削減のみでした。内容は変わらず、9月議会における全会一致の議決を踏まえたものとはほど遠い提案でした。決議を踏まえた修正は見られませんでしたので、否決せざるを得ませんでした。

東京事務所の縮小や、運営費補助総額に枠を設けることについて再生機構と協議することについては一定の評価をいたしました。しかし野平市長から突然発表された田中肇副理事長の辞任については、あたかも議会が求めたことのように喧伝されていますが、私たちは田中肇副理事長が運営の健全化と透明化を図りながらその任期を全うされることを強く望んできました。「議会の求め」とは正反対の田中副理事長の辞任でした。

「青天井」ではなく、赤字補てんのルールは必要だと思っています

病院再開にあたって平成22年に策定された再生事業計画の収支計画書における「医業収支」の赤字見込み額は、平成22年度が5011万円、23年度が1億964万円、24年度が1億389万円、25年度が1億3221万円。そして5年目の26年度は1億2714万円の黒字というものでした。野平市長は5年目の単年度黒字を議会で強くアピールしました。

もちろん医師確保の状況によって数字は大きく変動します。しかしこの事業計画や野平市長の主張を根拠として各議員が判断し、指定管理者の指定を可決したことも事実です。

赤字補てんの限度額の設定については、指定管理者の指定を審議した平成22年4月8日の臨時会でも議論になりました。青柳清一病院対策監はこの議会で「赤字補てんをする際には、具体的にある種のルールみたいなものを設けた方がいいとか、そういったことについてもその際に協議をさせていただければありがたい」と述べています。

野平市長も銚子市立病院で生じた赤字について「市の融資という方法はある」と述べています。「銚子市はそういう関係の法人のための連帯保証は法律上禁止されていますので、これはできない。市の融資という方法はある。市が貸すという方法。そういう方法は、こころクリニックについても同じように行なっている」と答弁しています。「病院の赤字は市が青天井で補てんする」とは述べていません。「銚子市立病院指定管理仕様書」の「リスク(責任)分担一覧表」には市と指定管理者が負うべき費用負担が定められています。

このような市長の考え方やリスク分担を踏まえて、私たちは指定管理者の指定を可決しました。

議会にこのような説明をしておきながら、議員や市民がまったく知らされない中で、再生機構の皆様に対しては「赤字はすべて市が補てんする」という約束を野平市長がしていたのであれば許されるものではありません。野平市長の言葉を信じた皆様の議会に対するお怒りは、ごもっともだと思います。

「病院の赤字補てんは青天井」と豪語し煽る市長の政治姿勢は、効率的な運営をめざす指定管理者制度の趣旨から逸脱したものです。多くの市民の反発を招く結果にもなりかねません。健全なコスト意識を持った経営を徹底していただくためにも、赤字補てんのルールをきちんと設けるべきだと私たちは思います。

黒字化が実現しなかった場合の長期貸付金の処理も含めて、赤字負担が再生機構の無理難題になることなく、ルール化できるような一致点を見出す提案・努力を議会もしていきたいと考えています。

辞めた医師を一方的に誹謗中傷する 野平市長の政治姿勢

10月31日の自らブログで野平市長は「銚子市長としては、多数派議員の横暴によって否決されたまま閉会された臨時市議会後、市立病院の本年度上半期の赤字補填の補正予算（3億円程）を何とか決着しなければならない。医療法人財団・銚子市立病院再生機構の理事会のお怒りの意思決定を、赤ワインならぬ固唾を飲み、恐れおののきつつ待ち受ける日々である。市立病院閉鎖の危険な締め切り期限は刻々と迫っている」と述べています。

否決せざるを得ない状況を作り出したのは野平市長自身なのに、まったく反省もなく、「多数派議員の横暴」と自分に異議を唱える議員を一方的に非難し、みずからを正当化する姿勢は一貫しています。

ブログや市の広報で、事実無根の誹謗中傷を全国に発信し続け、銚子市の信用を失墜させてきたのは野平市長自身です。初代院長であった笠井源吾医師に対して野平市長は、平成23年6月29日の自身のブログで「茨城県では有名だった暴力医師」と述べています。「『暴力議員』に続けて、『品格なき議員』の汚名、レッテルに甘んじなければならない。改善や反省は既に手遅れかも知れないから。茨城県では有名だった暴力医師と銚子市の暴力議員とが結託してはならない。傷口を拡げること勿れ」と書き込ん

でいます。轟健前院長に対しての暴言もすさまじいものでした。異常とも思える市長のブログがどれだけ人を傷つけ、銚子にとってマイナスの情報発信になってきたのか。医療界から銚子が信頼を失うような情報を発信し続けてきたのは野平市長自身です。銚子市民はそのことをよく知っています。

見識ある再生機構の皆様には、このような暴言を繰り返してきた野平匡邦市長の意図的にデフォルメされた情報を鵜呑みにすることなく、正しい情報に耳を傾けていただきたいと思います。私たちも皆さまと、しっかりと対話していきたいと思っています。

皆さまの『ご報告』では、「反対票を投じた12名の議員の方々は、『銚子市立病院が出している赤字を、銚子市が税金で補てんするべきではない』と主張されていると聞いています」と記されています。しかし、そのような議員はおりません。上記のように、再生機構に財源を確保していただいた上で赤字補てんのルールを確立することが必要だと訴えてきました。「赤字を、銚子市が税金で補てんするべきではない」と主張したことはありません。

「当初、銚子市及び市議会は病院再生の過渡期に生じる赤字は市が補てんすると約束していました。ところが今や『赤字を補てんすることはできない』と反対票を投じた議員の方々は言っています」という記述も、野平市長の発言のような一方的主張です。上記の説明から事実とは明らかに異なることはわかっていただけだと思います。

第三者評価（外部評価）を受け入れて下さい

皆さまにもいくつかの要望をさせていただきたいと思っています。

3月議会の決議（全会一致）でも要望したように、外部評価（第三者評価）の受け入れをぜひお願いいたします。当初の計画では「銚子市立病院再生準備機構」が病院運営を管理（監理）する役目を担うものとされていました。しかし準備機構は平成22年に解散し、銚子市立病院について、専門家の見地から病院運営を管理監督する機関はありません。

赤字の原因は何なのか。どのように改善していくのか。医師招へいのあり方はどうなのか。内部評価・自己検証とともに、有識者による第三者機関から点検・評価を受けることは、指定管理者にとって

も、必要な業務改善に取り組む仕組みを確立し、市民サービスの向上につなげていくために必要なことではないでしょうか。病院運営の透明性・公共性・健全性を確保する上からも有益な仕組みであると思います。

第三者評価は、横浜市など指定管理者制度を実施している他の病院でも行なわれていることです。ぜひ前向きにご検討いただきますようお願いいたします。

実情に合った数値目標の策定を要望します

赤字額については当初計画の「市立病院再生事業計画」とは大きくかけ離れたものとなっています。銚子市の財政負担に対する不安を感じる要因にもなっています。

医師数によって数値が大きく変動することは認識していますが、揺籃期から成長期に入った現時点で、「市立病院再生事業計画」をしっかりと見直すことは必要です。財政負担や赤字補てんの議論のためにも、数値目標を含めた実情にあった計画策定をお願いいたします。

情報公開による透明化は率直な思いです

皆様が民間の医療法人財団であることは承知しています。しかし銚子市立病院の運営を担うために銚子市が全額出資して設立された法人でもあり、法人運営費についてもすべて銚子市の負担です。赤字補てんや指定管理料の支出にあたっては、原資が市民の税金であることを考えれば情報公開による透明化が求められます。

銚子市立病院再生機構と同様に、市（町）が全額出資して医療法人財団を立ち上げ、指定管理業務を任せている大江病院（京都府）や東栄病院（愛知県）では徹底した情報公開に努め、市（町）と一体となった運営を行なっています。市（町）民の信頼なくしては公立病院の運営を担うことはできません。そのためには徹底した情報開示が必要だという認識があるからです。

私たちはこれまで、東京事務所の存在や、理事報酬の透明化などを求め、議会でも質問してまいりま

した。笠井源吾初代院長や轟健前院長が短期間で退任された時も、いったい再生機構の中で何があったのだろうかと疑問を持ち、理事会議事録の公開も求めました。多額の経費を必要とする東京事務所の存在理由や田中肇副理事長の給与・報酬・役割を追求してきたことも事実です。それは多くの市民が疑問に思ったことでもあったからです。

皆様の気持ちに対する配慮が足りず、行き過ぎた要求があったことは謙虚に認めます。しかし情報が遮断されるほど人間は疑問や不信感を持つこともご理解いただきたいと思います。誤った情報が一人歩きすることがないようにするためにも、できる限りの情報公開による透明化に努めていただくことを要望します

私たちは「対立」ではなく「対話」を求めています

病院を辞めていった医師に暴言を吐き、病院予算に少しでも反対する議員は「市民の敵」として攻撃する、野平市長の異常な姿勢は今も続いています。「病院の赤字は市が青天井で補てんする」と豪語して病院開設者としての責任を果たさず、病院を政争の具にして、マイナスの情報を全国に発信しているのは野平市長自身です。歪んだ情報を流して、意図的に議会と再生機構・病院を対立させ、自分は高見の見物をしている。このような誘導・戦略に、議会も病院も市民もはまってはならないと強く感じています。

私たちは、再生機構の皆様にも「対立」ではなく「対話」を求めています。銚子市民のために銚子市立病院をどのようにしていくのか。地域医療をどうしていくのか。議会と再生機構・病院はどのように市民の声を吸い上げ、努力をしていくべきなのか。皆様と真摯に向き合って「対話」を重ねていきたいと願っています。

ぜひ、「公開討論会」ではなく「対話のための集会」を開いていただきたいと願っています。

■ご意見・お問い合わせは

- ・宮内和宏（☎33-1348）
- ・三浦眞清（☎24-2334）
- ・加瀬庫蔵（☎23-4392）
- ・笠原幸子（☎23-7523）
- ・桑村邦博（☎23-1938）